

こんにちは。八月に入り、オーストラリアに来てから早いこと六か月が経ちました。留学を始めた当初は10ヶ月という期間は長いものだと思っていたのですが、気づけば残された時間は四か月と短く、一日も無駄にできないということを痛感します。

今回はオーストラリアの教育を六か月間受けてみて感じたことを書きたいと思います。オーストラリアではYear 10(日本の高校一年生)までは基礎的な科目を学ぶのですが、Year 11、つまり日本の高校二年生からは自分が行きたい大学の専攻の科目に合わせた教科選択が行われています。これはなぜかという、オーストラリアでは大学の合否が日本の共通試験の一発勝負で決まるのではなく、Year 12(高校三年生)の自分が選択した科目の成績で決まるからです。オーストラリアには様々な大学がありますが、例えばクイーンズランド州一番といわれる University of Queensland (UQ)の一番難しい専攻、薬学は99ポイントの Australian Tertiary Admission Rank(ATAR)が必要とされます。このATARというのは、ATAR(エイター)とは、オーストラリアで大学に入る際に必要となる成績の指標で、他の生徒たちと比較して、その生徒が学力的にどの位置にいるかを示すものです。00.00から99.95まで、0.05毎に、2000に分かれています。一番成績の高いレベルが99.95になります。つまり、UQの薬学専攻は全学年生徒のうちトップ約1パーセントに食い込まなければいけないということです。このATARの計算方法はやや複雑なので今回は割愛しますが、簡単に言えばほかの生徒より好成績をとればとるほど高いATARを取得することができるということです。また、オーストラリアには日本のように理系文系という区別がなく自分がやりたい得意な科目を勉強することができます。例えば将来理系の専攻に進む予定でも、その専攻が必要としている科目を取ってさえいれば、全く関係ない得意科目を選択することができます。例えば私が医学系に行きたいのであれば、化学や Math specialist(数学の中で一番難しいクラス)の選択が必要とされることがありますが、高いATARのスコアを獲得するために得意な美術と歴史を選択することができるということです。またみんながみんな大学に行くわけではなく働き始める子もたくさんいて、ATARは就職する時にも重要なつまり行きたい専攻によってYear11、12で勉強しなければいけない科目も変わるので、今のYear10のこの時期に進路を決める必要があるということです。

私は文系が得意なだけで実は理系の方にも前から興味があったのですが、日本での理系があまりにも難しく諦めて文系を選択しました。しかし、オーストラリアに来てから様々な人の話を聞いて、自分にも理系に進む道がまだあることを知り「自分の可能性を狭めなくていいんだ」と感じることができました。留学生がオーストラリアの大学に進学するとなるとまた先ほどの話とは異なり、日本の成績と International English Language Testing System(IELTS)のスコアが必要となります。大学やコースによって異なりますが、成績は評定平均が3.5~4.0以上、IELTSは6.0~6.5以上が求められるそうです。まだ自分が日本の大学に行くかオーストラリアの大学に行くか決めていませんが、今は選択肢を絞らず将来の自分が本当にやりたいことを選択できるように今は英語の勉強に専念したいと思います。残りの四か月間であとどれくらい英語力が伸ばせるかをチャレンジだと思って、一日一日を大切に過ごしていきたいと思いません。